

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

①施策名〔施策小〕	2 再資源化の推進	②施策番号	3301
③まちづくりの方向〔政策（章）〕	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち		
④基本施策〔施策大（節）〕	3 日常生活や事業活動などにおいてすべての市民・事業者が資源・エネルギーの利用などに配慮し、環境に負荷をかけないまちをめざします		
⑤基本的方向〔施策中〕	1 資源・エネルギー有効利用の推進		
⑥担当部名	⑦担当課名		
市民生活環境部	清掃課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

①施策の対象（誰、何に対して施策を実施するのか）	市民・事業者（排出する一般廃棄物）
②意図（対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか）	ごみを分別、リサイクルすることで、ごみの減量化及び資源化を推進する。
③環境（この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか）	レジ袋有料化により、容器包装プラスチック類の削減が進むと考える。また、ごみの減量化において、食品ロスの推進が必要となる。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標（成果指標）		単位	指標とした理由・考え方
① 集団回収団体	計算式	団体	市民の参加を促進し、資源化に対する意識の向上。
	—		
② 集団回収量	計算式	t	資源化率の向上を目的。
	—		
③ 資源化率	計算式	%	ごみの減量化及び資源化。
	資源化量÷総排出量×100		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
① 集団回収団体	団体		目標値	87	90	89	87	90	—
			実績値	85	86	85	—	—	
			達成率	97.7%	95.6%	95.5%			
② 集団回収量	t		目標値	957	997	850	902	997	—
			実績値	838	827	743	—	—	
			達成率	87.6%	82.9%	87.4%			
③ 資源化率	%		目標値	16	16	16	16	17	—
			実績値	14.1	13.9	13.6	—	—	
			達成率	88.1%	86.9%	85.0%			

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性	
1	3R推進事業	集団回収率	%	30	27	26	16,596	13,445	15,339	A	ア	◎
2	ごみ収集事業	1人1日の ごみ排出量	g	504	508	511	325,440	344,297	343,169	A	ア	○
3	塵芥収集管理・整備事業	修理件数	件	98	83	87	31,795	37,385	42,009	A	ア	
4	清掃庁舎管理事業	巡回、警備 報告書	件	12	12	12	11,453	11,724	11,331	A	ア	
5												
6												
7												
8												
計	4						385,284	406,851	411,848			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	3Rを推進することで、ごみ減量、資源の再利用を図り、循環型社会の構築に取り組む。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	集団回収の活動団体は横ばいで推移し、回収量及び資源化率も減少しております。再資源化を推進するためには、集団回収量や資源ごみ回収量が重要であることから、今後も方策等について検討を行い、周知・啓発に努めます。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	一般廃棄物処理は、市町村の責務である。市民、事業者がその立場で役割を分担し、相互の協力連携を図ることが重要である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	廃棄物処理法第6条第1項の規定により作成した、一般廃棄物処理計画に基づき、適正に処理を行っている。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	3Rを推進することで、1人1日のごみ排出量を減らし、ごみの総排出量を削減することで、ごみ減量化及び資源化に努め、集団回収の拡充に取り組む。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	集団回収や資源化率が減少しているため、集団回収の拡充と廃棄物の発生抑制、再利用、再生利用の3Rの推進に取り組めます。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	有価物集団回収報償金交付要綱の改定。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	家庭ごみ収集日程カレンダーを見やすく編集することで、ごみ分別と減量化について周知する。
中長期的対応 (3～5年をめぐりに取り組む改善案)	市民の視点にたった収集体制を検討し、ごみ排出を容易にすることで、分別排出を促進する。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	施策指標とする集団回収団体、回収量及び資源化率については目標値に対して一定割合が達成されており取組が適切に行われている。 ごみの減量化及び再資源化への周知・啓発を引き続き進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある